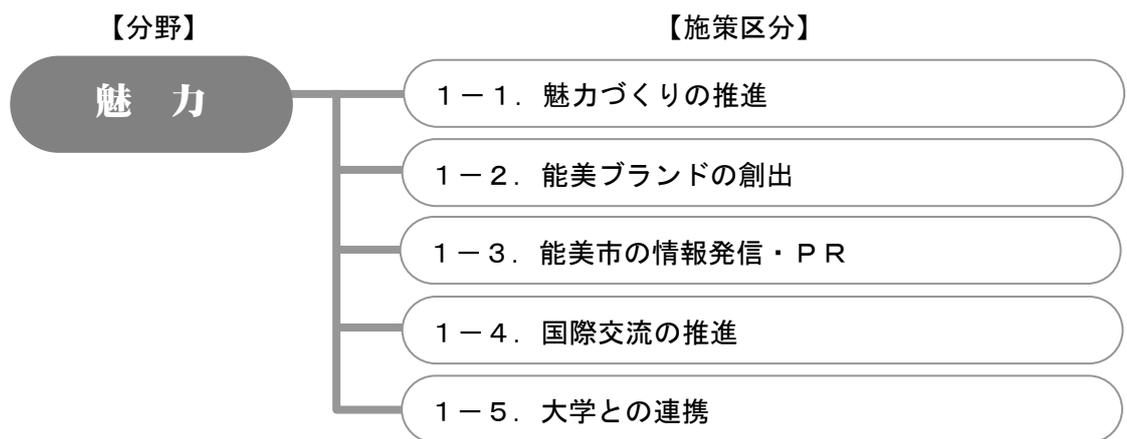


# 第1章 能美市の魅力を創造し、愛着のもてるまちづくり

---



## 1-1

## 魅力づくりの推進

## ● 現況と課題

◆ 魅力ある多様な地域資源の活用に向けて

本市には、日本海、能美丘陵、手取川といった豊かな自然をはじめ、総合文化会館や学習センター、古墳群や九谷焼関連施設、動物園や温泉、丘陵公園など、魅力ある多様な地域資源が点在しています。これらの地域資源を活用したまちづくりに向けて、各地域の魅力を高めるための拠点施設を整備し、市内交流の活性化や交流人口の増大を図っていく必要があります。

◆ 各種イベントの見直しと新市の一体感の醸成

本市では、九谷茶碗まつりや根上り七夕まつり、辰口まつりといった地域の特色を活かしたイベントを開催し、能美をアピールしてきました。合併後、「まつりの在り方検討委員会」において議論された既存イベントの運営形態や、新市の一体感を醸成する新たなイベントの創出が課題となります。

◆ 「ふるさと能美」の魅力の再認識

本市には、灯台笹遺跡や能美古墳群をはじめとする史跡や名勝が数多くあります。しかし、合併後も、多くの市民がその由来や位置を知らない状況です。

本市の魅力づくりに向けて、知られざる「ふるさと能美」の魅力を市民自らが再認識することが大切であり、市民と行政等が一体となった魅力づくりが求められます。

◆ 住みたいまちづくりを進め、定住化を促進

本市は、順調に人口が増加している地域です。これまで住みたいまちづくりを目指して働く場所の確保や子育て支援など様々な施策を展開してきました。人口減少時代こそ定住促進に向けた魅力あるまちづくりが求められます。

## ～ 市民の声 ～

- ◎地域特性を活かしながらも、一市としてまとまり、県一、日本一の市になるようなまちづくりをしてほしい。
- ◎体育祭・文化祭など旧町単位でなく、能美市全域の行事として開催地を同じくする。
- ◎若者にも魅力のあるまちづくりと市外に市民を流出させないような活気あるまちにしてほしい。



辰口丘陵公園

## ● 施策の展開方針

## 【施策目標】地域の個性が輝く、魅力ある能美市の創造

- 市の西部、中央部、東部のそれぞれの地域における特色を活かした地域拠点を整備し、他の主要観光施設との連携を強化して市内交流の活性化や交流人口の増大を目指します。
- 「市民・各種団体・企業・大学・行政が一体となって能美市を創る」ことをモットーに、将来も「住みたい、住み続けたい」と思えるまちづくりを目指します。

## 第1章 能美市の魅力を創造し、愛着のもてるまちづくり

## ● 事業メニュー

施策の分類	事業メニュー	計画期間		事業主体・協働体制
		前期	後期	
地域拠点づくりの推進	◆地域拠点づくりの推進 (JR寺井駅周辺整備、能美古墳群整備、辰口中心市街地整備)	○	○	都市計画課・JR寺井駅周辺整備推進室・生涯学習課、商工会、観光物産協会、市民
	◇ふるさと交流研修センター「さらい」の整備と運営	○	○	観光交流課
	◇地域拠点を活用した交流の推進	○	○	商店街、市民、観光交流課
魅力あるイベントの開催	◆九谷茶碗まつりの充実	○	○	九谷茶碗まつり実行委員会、観光交流課
	◇地域イベントの開催	○	○	観光交流課、市民
	◇新たな交流イベントの開催検討	○		観光交流課、市民
	◇四季の食彩イベントの開催	○	○	観光物産協会、観光交流課
市の魅力再発見	◇能美市ふるさと百選の選定	○		企画振興課、市民
	◇能美地域検定の実施	○		市民団体
	◇能美人の発掘と活用	○	○	地域振興課、市民
定住への魅力アップ	◆定住促進プランの策定	○		地域振興課
	◇新たな働く場所の創出	○	○	企業、商工課
	◇土地区画整理事業の推進	○	○	区画整理組合、都市計画課
	◇子育て支援の推進	○	○	子育て支援課、市民団体
	◆転入住宅取得者等への支援	○	○	観光交流課 農政課

※事業メニュー：「◆」は重点事業、事業主体・協働体制：「太文字」は事業主体（または市の担当課）

## ● 主な指標（目標値）

指 標	単 位	計画 策定時	前期 実績値	目標値	備 考
		H18	H23	H28	
九谷茶碗まつりの来場者数	人	267,000	250,000	280,000	
能美市の人口（国勢調査結果）	人	47,207	48,680	51,000	前期実績値はH22値

## ● 市民へのメッセージ

- ★みんなで知恵を出し合いながら魅力ある地域拠点を創り、交流の場として活用しましょう。
- ★みんなの力でまつりやイベントを盛り上げ、活気あるまちにしましょう。
- ★市内の史跡や名勝など郷土がもつ歴史・自然を再認識し、「ふるさと能美」に愛着を持ちましょう。
- ★みんなで協働しながら、将来も「住みたい、住み続けたい」と思えるまちにしましょう。

## 1-2

## 能美ブランドの創出

## ● 現況と課題

## ◆「地域ブランド」としての取り組みの不足

本市の特産品として、「丸いも」「ゆず」を生産加工販売してきましたが、「地域ブランド」としての本格的かつ積極的な取り組みはほとんど行われなかったのが実情です。

## ◆特産品の“ブランド化”とは？

ブランドとは「消費者による評価」のことで、その評価を高めることが「ブランディング」（ブランド戦略）であり、地域の特性と高い品質とがうまく融合できれば、消費者からの評価は高まり、その特産品が「地域ブランド」として定着することが可能になります。

## ◆特産品のブランド化に向けた課題

ブランド化によるメリットは、販売量を増やすことではなく、商品の品質や付加価値を高め、利益率を上げることです。そのためには、生産者や北陸先端科学技術大学院大学などとの連携を図り、研究開発に取り組んでいく必要があります。なお、九谷焼業界では、平成18年4月に「地域団体商標」の登録申請を行い、ブランド化に努めています。

## ◆『能美ブランド』の創出に向けて

本市には、上記の特産品や九谷焼をはじめ、海山川の自然や古墳群に代表される歴史、県内有数の工業集積、地域の知の拠点である北陸先端科学技術大学院大学など、多様な地域資源があります。また、災害や犯罪が少なく暮らしやすい住環境を有しており、世界的・全国的に著名なスポーツ選手や九谷焼作家等を輩出した地でもあります。これら市の魅力を総合的に活用し、市民・各種団体・企業・大学・行政が連携しながら、『能美ブランド』の創出に向けて取り組んでいく必要があります。

## ～ 市民の声 ～

- ◎他の市町村にはない特徴づくりをする。能美市の観光・名物などをアピールする。
- ◎能美市のポイントアップになるような特産品や土産品をつくり、観光客をUPさせる。
- ◎能美市ならではの名物をつくり、全国の人が知るものをつくりたい。



丸いも

## ● 施策の展開方針

## 【施策目標】能美ブランドの創出によるまちおこしの実践

- 特産品をはじめとする多様な地域資源を総合的に活用し、新たに『能美ブランド』としての商品開発や情報発信、サービス提供を目指します。
- 特産品については、生産者と消費者との協働により、市内における安全・安心な食材の生産・加工を推進するとともに、市内での流通システムの構築を図ります。
- 本市を代表する地域資源を活用し、能美ブランドの創出を図ります。

## 第1章 能美市の魅力を創造し、愛着のもてるまちづくり

## ● 事業メニュー

施策の分類	事業メニュー	計画期間		事業主体・協働体制
		前期	後期	
地域にこだわった商品づくり	◆地域特性の掘り起こし作業の推進	○		商工課、生産者、市民
	◆マーケットインの発想継続	○	○	商工課、生産者、先端大
	◇知的財産権に対する支援	○	○	商工課、先端大
消費者と直結した流通チャンネルづくり	◆地産地消の確保に対する支援	○	○	商工課、市民、生産者
	◆直接販売システムの確立支援	○	○	商工課、市民、生産者
	◇参加体験施設を通じたファンづくりの推進	○	○	商工課、生産者
生産者の思いを伝えるプロモーションづくり	◇地域全体のPR活動の推進	○	○	商工課、生産者
	◇表現戦略の推進（広告デザイン・スローガンの検討等）	○	○	商工課、生産者、先端大
ブランドの維持と活用	◇ブランド品に係る審査会の設置	○	○	商工課、市民、生産者
	◇新しい商品の開発	○	○	商工課、生産者、先端大
	◇新しいサービスの開発	○	○	商工課、生産者、先端大
市のブランド化の推進	◆「(仮)能美ブランド創出会議」の設立	○		企画振興課、市民、企業
	◇ブランド化に向けた市民ぐるみの勉強会の開催	○	○	地域振興課、市民

※事業メニュー：「◆」は重点事業、事業主体・協働体制：「太文字」は事業主体（または市の担当課）

## ● 主な指標（目標値）

指標	単位	計画策定時	前期実績値	目標値	備考
		H18	H23	H28	
ブランド品目数	品目	—	1	3	

## ● 市民へのメッセージ

- ★特産品など固有の地域資源を活用し、「能美ブランド」の創造・確立を通じて地域社会の活性化を図りましょう。
- ★「能美ブランド」の構築によって地域資源の価値を高め、魅力ある地域づくりを通じて交流人口の拡大に繋げましょう。
- ★市の地域ブランドをみんなで考え、「能美ブランド」として発信しましょう。

## 1-3

## 能美市の情報発信・PR

## ● 現況と課題

## ◆ 能美市の知名度が低い現状

能美市がどこにあり、どのような特徴がある都市なのかを知らない人がいるほか、九谷茶碗まつり、松井秀喜選手、辰口温泉、いしかわ動物園は知っていても、それが能美市と結びついていない人も少なくありません。

## ◆ より効果的な情報発信

知名度が低いため、積極的に観光・イベント情報、住みよい能美市を市内外にPRしていくための取り組みが重要です。

近年の情報化は急速に進展し、個人の受ける一日の情報量は有り余るぐらいになっています。このような状況から、相手に伝えるためには戦略的な発想を実践し、対象者の目線で対象者の立場に立ち、適切に行う必要があります。

また、キャラクターやホームページなどを活用した効果的な情報発信・PRを積極的に展開していくとともに、SNSを活用し、若年層への情報発信の充実も図る必要があります。

## ◆ 案内サインの充実による地域情報の発信に向けて

近年、金沢市などの観光都市では、構造改革特区制度を活用し、規格にとらわれず景観に配慮した案内サインや道路標識の整備を行っています。多様な観光資源を有し、国際交流が盛んな本市においても、統一したデザイン、ユニバーサルデザインを取り入れた案内サインによる地域情報の発信・PRが必要であり、景観に配慮し、計画的に配置していくことが課題となります。

## ～ 市民の声 ～

- ◎市外の人に能美市を紹介する資料がほしい。
- ◎能美市のいろんな施設を回ってみたいが、場所や道がわからない。
- ◎わたしが市長だったら能美市を全国的に有名なまちにします。能美市の利点をPRしていきます。



能美市の情報が満載の観光パンフレット等

## ● 施策の展開方針

## 【施策目標】 効果的な情報発信による、魅力あるまち、愛着あるまちづくりの推進

- デザインやイメージカラーを統一し、設置箇所等を示したサイン計画を早期に策定するとともに、景観に配慮し、不必要なサインは撤去するなどの再整備を推進します。
- 主要な入り口にゲートサインを設置し、サインを通じた市のPRを促進します。
- ホームページ、SNSなどを活用して、一方的な情報発信ではなく、相手はどう思うか、何に興味を持っているかという、第三者的目線、考え方で発信します。
- キャッチコピーやキャラクター等を活用した市の名称PRを推進します。

## 第1章 能美市の魅力を創造し、愛着のもてるまちづくり

## ● 事業メニュー

施策の分類	事業メニュー	計画期間		事業主体・協働体制
		前期	後期	
案内サインの整備	◆C I 戦略（サイン計画）の策定	○		企画振興課、市民
	◇ゲートサインの設置	○	○	観光交流課
	◇案内サインの統一化、ユニバーサルデザイン化の推進	○	○	企画振興課、市民
	◇既設案内サインの見直し	○		企画振興課
情報発信サービスの充実	◇市ホームページの充実	○	○	企画振興課、市民
	◇ふるさとメールの充実	○	○	企画振興課
	◇観光・イベント情報発信サービスの充実	○	○	観光交流課、観光物産協会
	◆情報発信拠点（街の駅など）の充実	○	○	観光交流課、市民
市の名称PRの推進	◇CATV地域チャンネルの充実	○	○	企画振興課、テレビ小松
	◇キャッチコピー・キャラクターの活用	○	○	企画振興課、市民
	◇ポスター・パンフレットの作成・更新	○	○	観光交流課
	◇市勢要覧の発行・更新	○	○	企画振興課
	◇公共的施設（JR寺井駅など）の名称検討	○		企画振興課、市民

※事業メニュー：「◆」は重点事業、事業主体・協働体制：「太文字」は事業主体（または市の担当課）

## ● 主な指標（目標値）

指標	単位	計画策定時	前期実績値	目標値	備考
		H18	H23	H28	
ホームページアクセス数	件	—	318,000	350,000	
ケーブルテレビ加入率	%	26.5	30.6	35	テレビ小松

## ● 市民へのメッセージ

- ★市民のみなさん一人一人が観光大使です。知人や来訪者、市外の人に「能美市」をPRしましょう。
- ★市のホームページに様々な情報が掲載されています。情報を共有して一緒にまちづくりを進めましょう。

## 1-4

## 国際交流の推進

## ● 現況と課題

## ◆30年間継続するロシアとの姉妹都市交流

ロシア連邦イルクーツク州シェレホフ市との姉妹都市提携は、昭和51年に旧根上町で始まり、以後、代表団や少年親善使節団の相互派遣等、活発な交流を続けてきました。その交流は合併とともに本市に引き継がれていますが、交流の市民へのPRは不足しており、今後は、いかにシェレホフ市との姉妹都市交流を市全体に広く浸透させながら、発展的な継続を進めていくかが課題となります。

## ◆友好都市・姉妹校との国際交流

海外派遣事業については、旧辰口町では平成3年からカナダ国との交流を始め、平成14年からは同国アルバータ州ストラスモア町との友好都市交流が行われており、その事業は合併とともに本市に引き継がれ、平成17年には派遣交流が行われました。また、根上中学校と韓国培材中学校が昭和56年に、寺井中学校と韓国大徳中学校が平成7年に姉妹校調印をし、それぞれ隔年交流を続けています。今後も、交流事業の継続と発展に向けて、市民全体に広く浸透するように理解と協力を得ていくことが求められています。

## ◆国際交流団体の育成と支援

国際交流員による外国語講座の開催や国際理解の推進に加え、保育園、学校訪問、イベント等への積極的な参加により国際交流を推進してきました。これからは国際交流員や市内の国際交流団体とも協力しながら、各種事業のより一層の充実を図る必要があります。

## ～ 市民の声 ～

◎ボランティアなどを通じて国際交流を深めていきたい。

◎国際交流の機会を増やしてほしい。カナダやロシア、韓国、いろんなメンバーで仲良くなりたい。



ロシア・シェレホフ市との姉妹都市交流

## ● 施策の展開方針

## 【施策目標】国際感覚の醸成と国際化に対応できる人材の育成

- 中学生を中心とした少年親善使節団による、定期的な姉妹都市との交流を推進します。
- 現在の国際交流のもと、ロシア、カナダ、韓国と寺井高校、北陸先端科学技術大学院大学との交換留学生制度や石川県立九谷焼技術研修所での外国人研修生の受け入れを図ります。
- 国際交流団体と連携しながら、交流国の文化に触れる機会の創出と市全体への国際理解の浸透を図り、ひいては市民の自主的な参加・交流を促進します。
- 国際交流に関するボランティアグループの育成支援、北陸先端科学技術大学院大学の留学生との交流機会づくりなど、市民の多様な国際交流活動を支援します。

## 第1章 能美市の魅力を創造し、愛着のもてるまちづくり

## ● 事業メニュー

施策の分類	事業メニュー	計画期間		事業主体・協働体制
		前期	後期	
国際交流の推進	◆ロシア及びカナダとの交流促進(少年親善使節団の相互派遣など)	○	○	<b>総務課・教育総務課</b> 、国際交流団体、中学校
	◇韓国における姉妹校との交流促進	○	○	<b>中学校</b> 、国際交流団体、教育総務課
	◇交換留学生、外国人研修生受け入れの推進	○	○	<b>教育総務課</b> 、先端大、寺井高校、石川県立九谷焼技術研修所
交流都市への理解促進	◇交流国の文化学習の場の設定	○	○	<b>生涯学習課</b> 、国際交流団体
	◇各種文化・スポーツ団体等との交流の機会づくりの推進	○	○	<b>国際交流団体</b> 、 <b>生涯学習課</b>
	◆ホームステイの受け入れや市民主導の国際交流活動の促進	○	○	<b>生涯学習課</b> 、国際交流団体、市民
国際交流団体との連携・支援	◇国際交流団体、NPOやボランティア等の各種団体との連携強化	○	○	<b>NPO等の各種団体</b> 、 <b>生涯学習課</b>
	◇各種団体への活動支援	○	○	<b>生涯学習課</b>
国際交流員による国際理解活動の推進	◇外国語講座の開催と継続して学べるサークル等の充実	○	○	<b>生涯学習課</b>
	◇児童館、保育園訪問による低年齢からの国際理解の促進	○	○	<b>子育て支援課</b> 、児童館、保育園
	◆イベントの開催による市民と市内外国人との交流機会の提供	○	○	<b>国際交流団体</b> 、市民、 <b>生涯学習課</b>

※事業メニュー：「◆」は重点事業、事業主体・協働体制：「太文字」は事業主体（または市の担当課）

## ● 主な指標（目標値）

指 標	単位	計画策定時	前期実績値	目標値	備考
		H18	H23	H28	
ジャパンテントにおける外国人受け入れ数	人	26	22	26	
外国語講座の講座数	講座	10	17	17	

## ● 市民へのメッセージ

- ★市民の皆様や民間団体が国際交流の主役となって、海外派遣や外国人留学生の受け入れに努め、国際感覚を身につけましょう。
- ★市民一人ひとりが国際理解を一層深めるために、講座を活用した外国語力の習得に努めましょう。

## 1-5

## 大学との連携

## ● 現況と課題

## ◆全国初の大学院大学の存在

北陸先端科学技術大学院大学は、学部を持たないわが国初の国立大学院大学として平成2年10月に創設されました。教職員328人、学生902人（留学生262人）で、知識科学、情報科学及びマテリアルサイエンスの先端的研究開発における世界最高水準の高等教育研究機関として、グローバルに活躍する人材を育成しています。

## ◆歩み出した先端大との連携

開学当時は、地区町会との市民交流などが活発に行われてきましたが、行政や企業との連携は進んでいませんでした。しかしながら近年は、産学官人的交流事業による院生の地元企業等への雇用実績や、新商品開発支援事業による企業へのアドバイス等、大学と企業等の連携が少しずつ動き始めています。大学側もこれまでの敷居の高いイメージから、ジャイストフェスティバル見直しなど、より広く一般開放する柔軟な対応が見受けられ、今後の連携促進が期待されます。

## ◆多方面にわたる新たな大学連携に向け

先端大とは、平成18年3月にまちづくりや人材育成など市の活性化や課題解決に向けた学官連携協定を締結し、これまで技術サービス契約21件、地域再生システム論などの連携プロジェクトを実施してきました。平成23年7月には、金沢大学との間で連携に関する包括協定を締結し、また、県内の高等教育機関で構成されている大学コンソーシアム石川の各種事業を通じた連携も進み始めています。

今後、多方面における市民・各種団体・企業・大学・行政の新たな連携促進が求められます。

## ～ 市民の声 ～

- ◎近くにある大学の見学や気軽に利用できる機会を設けてもらえるとありがたい。
- ◎世界最先端の知識を能美市のまちづくりに活かすべき。
- ◎地域と先端大のアパート住民とのつながりが薄い。
- ◎先端大に関連した子どもたちを対象にしたIT関連施設があればよい。



大学コンソーシアム石川事業での連携

## ● 施策の展開方針

## 【施策目標】知的で活力のある能美市の創造

- すべての市民が、先端大等を「地域の知の拠点」として気軽に行き来することができるような環境づくりを推進します。
- 地域の課題を大学等と連携し解決していくような仕組みづくりを進めます。
- 産学官の共同研究などを通じて、地域の活性化や人づくりを推進します。
- 留学生などとの地域レベルでの国際交流を推進します。

## 第1章 能美市の魅力を創造し、愛着のもてるまちづくり

## ● 事業メニュー

施策の分類	事業メニュー	計画期間		事業主体・協働体制
		前期	後期	
大学等との連携の強化	◇先端大との学官連携協定の継続	○	○	地域振興課、先端大
	◇金沢大との学官連携協定の継続		○	地域振興課、金沢大
	◇市民との交流機会の拡大	○	○	先端大、地域振興課、市民
	◇先端大と市街地とのアクセス向上	○	○	企画振興課、先端大、学生
共同研究の推進	◆学官連携協定による共同研究の推進	○	○	先端大、金沢大、地域振興課
	◇産学官の共同研究への支援	○	○	商工課、先端大、企業
交流施設の整備	◆リフレッシュ施設の整備	○		企画振興課、先端大、石川県
	◇交流施設の活用支援	○	○	地域振興課、先端大
学生との交流の促進	◇ホームステイ交流組織の育成	○	○	市民、地域振興課
	◇フレンドシップ育成事業の推進	○	○	市民、地域振興課、学生
	◇児童生徒への語学指導の実施	○	○	学校教育課、先端大
	◇能美版フードピア交流会の開催	○	○	市民団体、地域振興課
人材の育成	◆（仮）nomi先端塾の開講	○	○	地域振興課、先端大、市民
	◇先端大卒業生の市内企業就職の促進	○	○	企業、先端大、商工課

※事業メニュー：「◆」は重点事業、事業主体・協働体制：「太文字」は事業主体（または市の担当課）

## ● 主な指標（目標値）

指 標	単位	計画策定時	前期実績値	目標値	備考
		H18	H23	H28	
先端大との連携事業の件数	件	7	2	5	
金沢大との連携事業の件数	件	—	—	5	

## ● 市民へのメッセージ

- ★先端大に一度行ってみましょう。
- ★大学の知恵を借りながら、地域の課題を一緒に解決しましょう。
- ★世界から来ている大学の留学生と、ホームステイを通じて友達になりましょう。